

冠動脈疾患と脳卒中では死亡率と発症率に関連あり—日本の研究から

心臓血管病の負荷を推定するには発症率に関する情報が重要であるが、死亡率の測定が発症率の予測に有用であるかについては不明であった。本研究では、日本の8地域の集団を対象に、冠動脈疾患および脳卒中の発症率と死亡率を検討した。

1990～2010年に40～59歳の男女94,657例を対象に、8つのコホート研究を実施した。平均追跡期間は18.5年であった。結果、心臓血管病および脳卒中の死亡率と発症率に高い関連性が認められた。それぞれの疾患の男女別の発症率/死亡率の比率を検討したところ、冠動脈性疾患の男性では2.06、女性で1.41、脳卒中の男性で3.99、女性で4.44であった。8地域の比率に顕著な地域差はみられなかった。

したがって、人口動態統計より得られる死亡率から、冠動脈疾患や脳卒中の発症率予測が可能であることが示唆された。また、冠動脈疾患や脳卒中による死亡率が高い地域ほど、冠動脈疾患予防に積極的に取り組む必要があるといえる。

出典：International Journal of Cardiology. 2016; 222: 281-286